

キャッシュ・フロー計算書

第51期（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）

（単位：千円）

科 目	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	887,242
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 108,633
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 748,585
IV 現金及び現金同等物の増加額	30,024
V 現金及び現金同等物期首残高	1,438,471
VI 現金及び現金同等物期末残高	1,468,495

利益処分

第51期（平成17年6月29日承認）

（単位：円）

科 目	金 額
I 当 期 未 処 分 利 益	115,356,965
II 任 意 積 立 金 取 崩 高 固定資産圧縮積立金取崩高	6,386,638
合 計	121,743,603
これを次のとおり処分いたします。	
III 利 益 処 分 額 利 益 配 当 金 (1株につき5円)	21,517,500
IV 次 期 繰 越 利 益	100,226,103

(注) 固定資産圧縮積立金取崩高は租税特別措置法に基づいたものであります。



株式会社 **スガイ**・エンタテインメント

〒060-0063 札幌市中央区南3条西1丁目8番地
TEL011-241-3951

事業報告書

第51期

(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)

SUGAI ENTERTAINMENT CO., LTD.

営業の概況

アミューズメント施設業界におきまして、前半は、高速通信回線を利用したネットワーク型ゲームの拡大、大型機種によるメダルゲームの人気などにより堅調に推移しましたが、ゲーム景品のヒット作不足の影響や昨年末からの家庭用ゲーム業界の活況に伴う影響等により、後半は、やや低調に推移しました。映画興行界におきましては、シネマコンプレックスを中心にスクリーン数が増加したこと、並びに「ハリィ・ポッターとアズガバンの囚人」・「世界の中心で、愛をさけぶ」・「ハウルの動く城」などのヒット作があったことにより2004年1-12月は過去最高の興行収入を記録しました。その一方で従来のシネコン対既存館の構図に加えて、シネコン同士による競合も見られるなど競争が激化しております。

このような中、当社は、ヒットゲーム機の積極的な導入、既存施設メダルコーナーの新設・増設などの活性化を図るほか、北海道初のプロ野球球団「北海道日本ハムファイターズ」のオフィシャルスポンサーとなり様々なキャンペーン企画を実施しました。

当期の売上高につきましては、前期オープンしたスガイディノス旭川は反動減が予想以上に少なく堅調に推移しましたが、昨年初めから続いている全国的なボウリングの低調傾向に加え、昨年夏の記録的な猛暑、アテネオリンピック、台風、今冬の記録的な大雪等の外部要因の影響も加わり、65億190万円（前期比5.8%減）と減収となりました。

利益につきましては、売上高の減少に加え、メダルコーナーの新設・増設等による積極的な設備投資等による初期投資負担（減価償却費等）の増加なども影響し、経常利益450万円（前期比89.0%減）、当期純利益220万円（前期比87.5%減）になりました。

部門別の概況

(アミューズメント施設部門)

ゲーム部門につきましては、前期オープンしたスガイディノス旭川が予想以上に反動減が少なく堅調に推移したこと、スガイディノス（平成15年12月）、スガイティネ・旭川スガイビル（平成16年7月）にメダルコーナーの新設・増設を実施したこと、平成16年9月釧路町に小型店をオープンし好調に推移したこと、並びに当社オリジナルゲーム景品（ハローキティ・ファイターズバージョン

のぬいぐるみ）の開発・投入が好評を博していることなどプラス要因はありましたが、ゲーム景品のヒット作不足の影響や昨年末からの家庭用ゲーム業界の活況に伴う影響、並びに旭川スガイビルの改装効果が期待を下回ったことなどにより、売上高は前期比0.1%減となりました。

ボウリング部門につきましては、SFC（スガイファンクラブ）会員の増強や団体セールスの強化のほか、「北海道日本ハムファイターズ」のオフィシャルスポンサーとなり、各種キャンペーン企画を実施しましたが、昨年初めから続いている全国的なボウリングの低調傾向に歯止めをかけることができず、昨年夏の記録的な猛暑、アテネオリンピック、台風、今冬の記録的な大雪等のマイナス影響、並びに一部レーン数の削減等の影響も加わり、売上高は前期比12.7%減となりました。

カラオケ部門につきましては、前半は競合店の増加の影響等により低調傾向が続き、後半から料金見直し（一部値上げを含むフリードリンク制他）等により上昇傾向に転じたものの、売上高は前期比7.0%減となりました。

その他部門につきましては、平成15年12月にオープンした札幌スガイビルのターツバーの売上が寄与しましたが、ビリヤード部門の売上の低迷により、売上高は前期比7.6%減となりました。

以上の結果、アミューズメント施設部門売上高は、55億5500万円（前期比4.9%減）となりました。

(映画興行部門)
映画興行部門につきましては、老朽化した既存映画館（平成16年3月旭川スガイビル2スクリーン、平成16年3月函館映画2スクリーン）の閉館の影響、「ラストサムライ」・「ファインディング・ニモ」・「マトリックス」シリーズ等の大ヒット作を多く上映できた前期の反動減などにより、映画興行部門売上高は7億2800万円（前期比8.2%減）となりました。

(その他)
レンタル・リサイクル事業部門は、重要性が低くなったため、当期より「その他」に含めた部門にすることとし、前期についても「その他」に含めて比較しております。なお、レンタル・リサイクル部門売上高は、競合店の増加、並びに一部の売場を縮小したことなどにより、2億2300万円（前期比19.0%減）となりました。

貸借対照表

(単位：千円)

資産の部			負債及び資本の部		
科目	金額		科目	金額	
	第51期 平成17年3月31日現在	第50期 平成16年3月31日現在		第51期 平成17年3月31日現在	第50期 平成16年3月31日現在
流動資産	1,713,805	1,827,809	流動負債	2,067,732	1,936,785
現金預金	1,468,495	1,438,471	買掛金	78,396	87,635
売掛金	51,910	53,833	一年以内償還予定の社債	85,000	35,000
有価証券	459	110,444	一年以内返済予定の長期借入金	1,206,940	1,174,760
商品	45,695	51,769	一年以内返済予定の長期未払金	192,318	-
貯蔵品	44,194	38,972	未払金	343,731	292,225
前払費用	60,492	59,729	未払費用	49,949	48,878
繰延税金資産	35,017	67,485	未払法人税等	18,067	182,616
未収入金	4,380	3,298	未払消費税等	20,991	38,025
その他	3,320	3,953	前受金	22,183	13,106
貸倒引当金	△ 160	△ 150	預り金	12,697	14,677
固定資産	12,725,435	13,113,507	賞与引当金	37,458	49,854
有形固定資産	11,226,602	11,243,193	その他	-	7
建物	4,606,984	4,782,596	固定負債	5,859,063	6,477,512
構築物	69,876	81,906	社債	392,500	192,500
機械装置	49,744	54,336	長期借入金	4,935,225	5,742,165
アミューズメント機器	1,042,861	940,537	長期未払金	217,839	226,939
レンタル用資産	21,281	21,939	繰延税金負債	33,185	46,343
車輛運搬具	1,657	1,552	退職給付引当金	178,315	172,025
工具器具備品	148,489	157,249	役員退職慰労引当金	97,213	91,284
土地	5,186,604	5,203,075	預り敷金	4,785	6,255
建設仮勘定	99,102	-	負債合計	7,926,796	8,414,298
無形固定資産	9,375	9,222	資本金	948,775	948,775
電話加入権	8,127	8,127	資本剰余金	1,128,995	1,128,995
ソフトウェア	1,248	1,094	資本準備金	1,128,995	1,128,995
投資その他の資産	1,489,457	1,861,091	利益剰余金	4,410,916	4,420,614
投資有価証券	152,591	174,289	利益準備金	61,000	61,000
出資金	576	576	任意積立金	4,234,559	4,090,946
長期貸付金	358,701	375,582	固定資産圧縮積立金	194,559	200,946
長期前払費用	69,286	56,475	別途積立金	4,040,000	3,890,000
差入保証金	908,254	1,254,144	当期末処分利益	115,356	268,668
その他	47	23	株式等評価差額金	23,756	28,632
資産合計	14,439,240	14,941,316	資本合計	6,512,444	6,527,017
			負債及び資本合計	14,439,240	14,941,316

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位：千円)

科目		金額		
		第51期 平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	第50期 平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで	
経常損益の部	営業損益の部	営業収益	6,519,332	6,923,074
		売上高	6,519,332	6,923,074
		営業費用	6,306,412	6,319,318
		売上原価	5,533,641	5,526,502
		販売費及び一般管理費	772,770	792,816
	営業利益	212,919	603,756	
	営業外損益の部	営業外収益	22,703	24,513
		受取利息及び配当金	8,322	7,694
		アミューズメント機器売却益	367	2,042
		雇用促進奨励金等	5,358	8,065
保険金収入		2,821	-	
協賛金収入	2,333	-		
その他	3,499	6,710		
営業外費用	189,726	210,976		
支払利息	151,165	166,860		
社債費用	14,155	5,810		
アミューズメント機器処分損	22,924	33,645		
その他	1,480	4,660		
経常利益	45,896	417,292		
特別損益の部	特別利益	61,950	-	
	投資有価証券売却益	44,142	-	
	収用補償金	17,808	-	
	特別損失	45,703	59,953	
	固定資産除却損	11,131	56,522	
	固定資産売却損	14,999	-	
	支払補償金	6,530	-	
	差入保証金返還損	12,043	-	
その他	1,000	3,431		
税引前当期純利益	62,143	357,338		
法人税、住民税及び事業税	16,950	187,818		
法人税等調整額	22,615	△ 11,138		
当期純利益	22,578	180,658		
前期繰越利益	92,778	88,009		
当期末処分利益	115,356	268,668		

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

(第51期) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 11,529,502千円
 貸借対照表・損益計算書 2. 商法施行規則第124条第3号に規定する純資産額 23,756千円
 の注記 3. 1株当たり当期純利益 5円25銭